令和6年1月30日発行
宮城県佐沼高等学校　定時制課程

～今月は「節分とそれにまつわる料理」についてご紹介します～

★　2月3日は節分です

節分は、季節の分かれ目を指します。立春・立夏・立秋・立冬それぞれの前日として、昔は1年に4回ありました。 しかし、日本では立春が1年の始まりとして特に尊ばれ、立春の前日が節分として残りました。

★　豆まきの由来について

昔、京都の鞍馬に鬼が出た時、毘沙門天のお告げによって大豆を鬼の目に投げつけたところ、鬼を退治できたという話から「魔の目（魔目＝まめ）」に豆を投げつけて魔を滅する（魔滅＝まめ）」ことが由来という説があります。 また、生の豆ではなく炒った豆を使うのは、「炒る」は「射る」に通じて縁起が良いことと、生の豆だと拾い忘れた際、鬼を退治した豆から芽が出ると縁起が悪いためです。豆まきが終わり、最後に豆を食べるのは、豆を食べてしまうことで鬼を退治したということになるためです。

★　恵方巻きについて

江戸時代の終わり頃に、大阪の商人たちの間で、商売繁盛と厄払いの意味を込めて海苔巻きを恵方に向かって食べたのが始まりとされています。恵方とは、その年の福徳を司る年神様のいる方角で、その方角に向かって事を行えば何事も吉とされます。食べ方は，恵方を向き、しゃべると運が逃げるため、黙々と食べるのが一般的と言われています。

★　節分いわし（柊いわし）について

節分の習慣に、柊（ひいらぎ）の小枝に焼いたいわしの頭を刺して、玄関先に飾る 「柊いわし」 があります。この意味は、焼いたいわしの臭いを鬼が嫌うことと、柊のギザギザした葉が鬼の目を刺すことから、鬼を追い払うという意味が込められています。